

大学共通コア科目でのコミュニケーションのルーブリック

評価の観点	評価の尺度		
	十分に到達できている	一部は到達できている	かなりの努力を要する
多様性の受容	自分と異なる意見や価値観について、自身の考えとの対比や融合を試みることができる。	自分と異なる意見や価値観を、新しい情報として受けとめることができる。自身の考えとの対比や融合については十分にできていない。	自分と異なる意見や価値観を新しい情報として受け止める必要がある。自身の考えとの対比や融合を試みる努力が必要である。
共感の提示	情報の送り手の考え方や感情などを受け止め、理解することができる。情報の送り手の考え方や感情について理解していることを、共感的な反応によって示すことができる。情報の送り手の考え方や感情などを引き出す質問ができる。	情報の送り手が伝える、考え方や感情などをそのまま受け止めることができる。考え方や感情などの理解については十分にできていないため、情報の送り手に対して肯定的な関心を示すことができていない。	情報の送り手の話に集中すること、最後まで聞く必要がある。自分に必要な情報、興味のある情報以外に関心を持つ必要がある。
正しい理解	情報の送り手が伝える内容について、その背景や意図を踏まえた上で理解することができる。細部まで情報を理解している。	情報の送り手が伝える内容について、表面的な理解は出来ている。情報の送り手が伝える内容についての意図や背景については十分に理解できていない。細部の情報について、誤解なく理解することが必要である。	情報の送り手が伝える内容を正しく理解することが必要である。
明確な伝達	情報の受け手の視点を考慮した上で、話の筋が整理されている。(伝えたいことが明確である) 情報の受け手が理解できる表現を使用している。	情報の受け手の視点を考慮して伝えようとする事ができる。話の筋・要点の整理が十分にできていない。	自分の考えや気持ちを示していくことが必要である。
配慮のある自己主張	相手の考え・気持ちや状況への配慮を踏まえた上で、自分の考えや気持ちを伝えることができる。	自分の考えや気持ちを率直に伝えることができる。相手の考え・気持ちや状況への配慮が十分にできていない。	情報の受け手への配慮が必要である。